

# 津山市の環境報告書

平成25年度版

(平成24年度実績報告・平成25年度行動計画)



津 山 市

## はじめに

現在、地球温暖化が深刻化しつつあります。

これは、二酸化炭素などの温室効果ガスが大気中に大量に放出されることで引き起こされる現象で、自然や生物だけでなく我々人間自身にも大きな影響を与える問題となっています。

この地球温暖化問題の解決に向けては、世界中でさまざまな取り組みが進められております。国連気候変動枠組み条約に基づく第19回締約国会議(COP19)において、我が国は京都議定書で『1990年比6%減』と義務付けられた温室効果ガス排出量を8.2%削減し、義務達成が確実になつたとしています。

しかし一方で、安全性の揺らいだ原子力発電依存からの脱却を図りながら今後の削減を進めることは非常に厳しい局面となっており、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの拡大等、優れた環境技術で削減目標を達成し、石油依存型社会から低炭素社会へのシフトを図りながら国際社会における責務を果たしていこうとしています。

こうした中、本市におきましても、本年4月に新エネルギー環境政策室を新設し、地域の特性を生かした再生可能エネルギーの導入促進により、低炭素社会へ向けた取り組みを進めています。本市の目指すべき都市像である「自然ゆたかな環境共生都市」を実現するためにも、市民・市民団体・企業との協働により取り組みを進めていきますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

この環境報告書は、津山市環境基本計画に基づき、平成24年度における本市の環境の現状や環境施策の進捗状況と、平成25年度の行動計画をまとめています。市民の皆様が環境問題を身近に考えていただき、“笑顔あふれるふるさと津山”の実現のため、この報告書をご活用いただければ幸いです。

平成25年12月

津山市長 宮地 昭 範



# 津山市環境報告書もくじ

## 第 1 章 津山市の環境の現状

- 1 環境の現状を伝える意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 「ビジョン」ごとの環境の現状・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - まち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
  - ひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
  - 循環・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

## 第 2 章 平成 2 4 年度の環境基本計画の実施状況とその評価

- 1 年次報告の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 1
- 2 「ビジョン」ごとのプロジェクトの実施状況と評価・・・・・・・・ 1 1
  - 自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 1
  - まち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 3
  - ひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4
  - 循環・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 5

## 第 3 章 平成 2 5 年度の行動計画

- 1 年次行動計画の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7
- 2 「ビジョン」ごとの年次行動計画・・・・・・・・・・・・・・ 1 8
  - 自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 8
  - まち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 8
  - ひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 9
  - 循環・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 9

# 第1章 津山市の環境の現状

## 1 環境の現状を伝える意義

この章の目的は、津山市の環境の現状を調査分析することで、市が抱えている環境問題を認識し、その問題を解決すべき課題として抽出することにあります。課題を抽出し、課題の解決に向けた目的目標の設定をすることで、達成するための計画の立案(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、見直し(Action)といった一連のプロセスの繰り返し(PDCAサイクル)により、環境の改善が図れることとなります。

この章では、環境基本計画の「ビジョン」の区分毎に環境の現状を明らかにし、問題の分析をしています。

## 2 「ビジョン」ごとの環境の現状

### 自然

#### 主な山岳・・・

中国山地の南面傾斜地として、1,000～1,200mの山々が、緑豊かな地域を形成しています。また、津山市北部は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されています。

山岳名	標高	位置
天狗岩	1196.6	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界
滝山	1196.5	大吉・勝田郡奈義町境界
三十人ヶ山	1171.7	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界
角ヶ山	1152.7	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界
爪ヶ城山	1115.0	大吉・奥津川
大ヶ山	989.8	加茂町倉見・加茂町知和・阿波
桜尾山	957.1	加茂町物見・鳥取県境界
公郷仙	862.0	加茂町公郷・加茂町下津川
大釈山	848.2	加茂町公郷・加茂町知和・加茂町下津川
天狗寺山	831.8	大篠・加茂町行重・加茂町成安
山形仙	791.1	新野山形・奥津川・西上
甲山	777.0	大吉
矢筈山	756.4	加茂町山下・加茂町知和
釈山	753.1	加茂町物見
入道山	752.3	上横野・苫田郡鏡野町境界
鳥山	701.0	大篠・吉見・綾部
寺山	681.6	加茂町青柳・加茂町戸賀・加茂町黒木
黒沢山	668.0	東田辺
矢倉山	659.5	宮部上・真庭市・苫田郡鏡野町境界

#### 主な河川・・・

津山市中心部を一級河川吉井川が貫流し、これに加茂川や広戸川、皿川、久米川などの支流が交わり、水資源に恵まれています。

河川名	上流端	下流端	総延長 (m)	
吉井川	苫田郡鏡野町	岡山市	133,273	
支川	広戸川	津山市	18,045	
	加茂川	津山市	38,455	
	倉見川	津山市	17,000	
	皿川	久米郡美咲町	津山市	14,243
	久米川	津山市	津山市	12,368

## 空気・・・

自然にめぐまれた津山の空気は、県南の都市部に比べ、きれいな質を保っています。

岡山県による測定結果を見ても「望ましい環境」の基準を示す環境基準に照らし合わせても、適合しない日はほとんどない状況です。

年度	二酸化硫黄			二酸化窒素			浮遊粒子状物質		
	年平均値 (ppm)	1時間値が 0.1ppmを 超えた時間 数 (時間)	日平均値が 0.04ppmを 超えた日数 (日)	年平均値 (ppm)	1時間値が 0.2ppmを 超えた時間 数 (時間)	日平均値が 0.06ppmを 超えた日数 (日)	年平均値 (mg/m <sup>3</sup> )	1時間値が 0.20mg/m <sup>3</sup> を 超えた時間 数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> を 超えた日数 (日)
平成19年	0.004	0	0	0.008	0	0	0.023	9	1
平成20年	0.004	0	0	0.008	0	0	0.023	0	0
平成21年	0.002	0	0	0.007	0	0	0.025	4	1
平成22年	0	0	0	0.007	0	0	0.025	3	1
平成23年	0.002	0	0	0.006	0	0	0.024	0	1

資料 岡山県環境保健センター

### 環境基準達成状況

対象物質	基準	達成状況
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	基準値を満たしている。
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。	基準値を満たしている。
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値が、0.10mg/m <sup>3</sup> 以下で、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。	数件の不適合が検出される年もあるが、黄砂等突発的な要因と推察される。

## 河川水質・・・

河川の水質は、下水道や合併処理浄化槽などの汚水処理施設が整備されるにつれて改善しています。市では、河川17箇所(うち環境基準類型指定水域12箇所)、中小河川51箇所の水質を検査しています。

### 環境基準達成状況

対象	測定項目	環境基準値		水質検査回数	環境基準達成状況
		類型A	類型B		
河川水質検査 (17箇所、うち環境基準類型指定A6箇所、類型指定B6箇所)	水素イオン濃度 (pH)	類型A	6.5以上8.5以下	年2回	92%
		類型B	6.5以上8.5以下		100%
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	類型A	2mg/ℓ以下		100%
		類型B	3mg/ℓ以下		100%
	浮遊物質 (SS)	類型A	25mg/ℓ以下		100%
		類型B	25mg/ℓ以下		100%
	溶存酸素量 (DO)	類型A	7.5mg/ℓ以上		100%
		類型B	5mg/ℓ以上		100%
	大腸菌群数	類型A	1,000MPN/100ℓ以下		33%
		類型B	5,000MPN/100ℓ以下		33%
水温、全窒素、全りん、溶解性マンガン、溶解性鉄、全クロム、銅、鉛、亜鉛			年1回		
中小河川水質検査 (51箇所)	pH(水温)、BOD、DO		年2回		

MPN(most probable number) :

最確数。大腸菌群の数値を確率的に算出する方法を用いて推定した数に用いる単位。

資料 環境生活課

## 地下水・・・

市では、地下水の測定を毎年行いますが、平成24年度の結果は以下のとおりです。

### 環境基準達成状況

測定項目	測定結果	環境基準値
	綾部市内	
六価クロム	< 0.02	0.05mg / l以下
ふっ素	0.12	0.8mg / l以下
トリクロロエチレン	< 0.002	0.03mg / l以下

<・・・定量下限値未満

## ダイオキシン類・・・

環境中にあるダイオキシン類

の量を把握するため、岡山県がダイオキシンを測定しています。平成24年に行った4項目125地点での測定結果によると、環境基準を満たしていました。

### 環境基準達成状況（平成24年度）

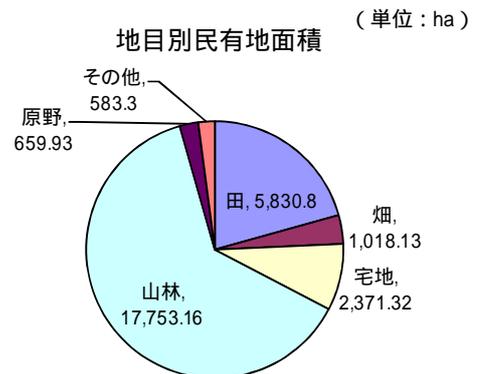
種類	資料採取場所	測定値	環境基準	単位
大気	山下地内	0.013	0.6以下(年間平均値)	pg-TEQ / m <sup>3</sup>
河川水質	吉井川嵯峨堰	0.032	1以下(年間平均値)	pg-TEQ / l
地下水質	津山市綾部	0.019	1以下(年間平均値)	pg-TEQ / l
土壌	津山市綾部	0.023	1,000以下	pg-TEQ / g

資料 岡山県環境白書平成24年版

## 森林・・・

市面積の約6割が森林に覆われて、そのうち約2/3を人工林が占めています。

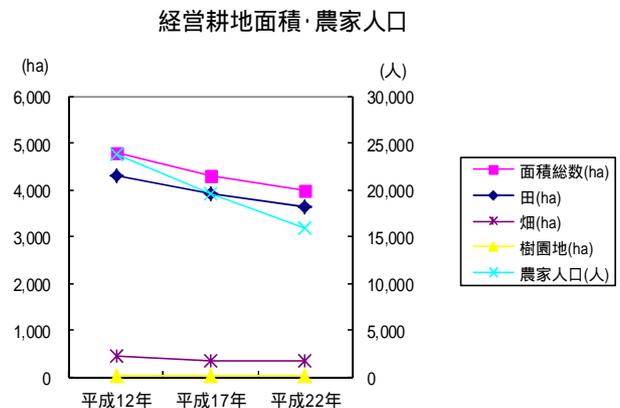
しかし、林業従事者の減少などにより、人工林の間伐が十分行われていない等、管理が行き届いていない森林が多く、このことは、地面に光の届かない、うっそうとした森が増えていることでもあり、生きものの住みにくい環境を作り出しています。



資料 固定資産概要調査

## 農地・・・

後継者不足により農業者が減少するにつれ、経営耕地面積は減少しています。これは全国的な傾向であり、各地で農地の活用・保全に向けた取り組みが始まっています。



平成12、17年は現在の市域に組み替えたもの

資料 農林業センサス

## 国定公園・自然保護地域・・・

津山市は、その大半が森や農地で占められており、吉井川がまちの中心部を流れるなど、自然に恵まれたまちです。

この自然を守るため、次の地区について国・県・市は、それぞれ、公園、自然保護地域として指定しています。

自然公園法、岡山県立自然公園条例、岡山県自然保護条例、津山市環境保全条例に基づき指定。

### 自然公園法に基づく国定公園

名称	所在地	指定年月
氷ノ山後山那岐山国定公園	阿波、大岩、大吉、奥津川、加茂町青柳、 加茂町倉見、加茂町黒木、加茂町知和	昭和44年4月

### 岡山県立自然公園条例に基づく県立自然公園

名称	所在地	指定年月
湯原奥津県立自然公園	加茂町倉見	昭和45年5月

### 岡山県自然保護条例に基づく郷土自然保護地域

名称	所在地	面積(ha)	指定年月
矢筈山地域	加茂町知和・加茂町山下	84.7	昭和57年3月
中山神社の社叢 <small>しゃそう</small>	一宮	6.78	平成4年3月

### 岡山県自然保護条例に基づく郷土記念物

名称	所在地	指定年月
山形八幡神社の森	新野山形	昭和62年3月
物見神社の社叢 <small>しゃそう</small>	加茂町物見	平成13年3月
宝蔵寺の森	加茂町齋野谷	平成16年3月

### 津山市環境保全条例に基づく自然環境保護地区

名称	所在地	面積(ha)	指定年月
黒沢山地域	東田辺・山方・上横野	613	昭和48年9月

### 津山市環境保全条例に基づく郷土自然保護地区

名称	所在地	面積(ha)	指定年月
神楽尾山地域	総社・小原・上田邑・一宮	693	昭和48年9月
神南備山地域	一方・井口・大谷・横山・八出・小桁・種	564	昭和48年9月

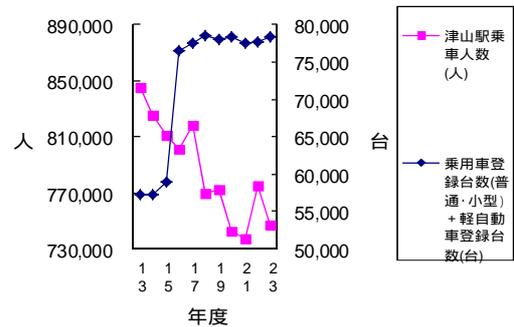
## まち

### 交通・・・

自動車社会化の進展に加え、バスについては赤字路線から民間事業者が次々と撤退し、公共交通の利用が年々減っています。

市では、平成22年3月に「津山市地域公共交通総合連携計画」を策定し、維持継続できる地域公共交通体系づくりを基本方針として、利用者の増加を図るための取り組みを実施するとしています。

津山駅乗車人数と自動車登録台数



乗用車登録台数は平成16年度までは津山地域、平成17年度以降は全域の台数。

資料 西日本旅客鉄道・岡山運輸支局・市課税課

### 騒音・・・

騒音の発生源は多様ですが、自動車の走行も発生源のひとつです。

市では、毎年、都市計画区域内の道路に面する地域とそれ以外の地域で測定を行っていますが、平成24年度の結果は以下のとおりです。

#### 騒音測定調査結果

環境基準対象区域

種別	測定地点数	時間帯	環境基準達成地点数	達成率
道路に面する地域	4	昼間	2	50%
		夜間	2	50%
上記以外の地域	4	昼間	4	100%
		夜間	4	100%

このほか11箇所において、騒音測定を実施している。

資料 環境生活課

## 公園・・・

津山市は、古くからの歴史を有するまちであり、市内の緑地にも歴史的な特色が感じられます。平成12年3月に制定された『緑の基本計画』に基づき、津山市の歴史的風土や良好な自然環境等の地域の特徴をいかした整備が進んでいます。

都市公園の状況



平成16年度までは津山地域の都市公園数・面積、平成17年度以降は全域の都市公園数・面積。

資料 公園緑地課

都市型公園の状況

名称	面積 (ha)	施設
グリーンヒルズ 津山	28.3	駐車場 800 台、リージョンセンター (1,668 ㎡)、レストラン (407 ㎡)、フラワーガーデン、ウォーターガーデン、野外ステージ、トリムの森のわんぱく城、花時計他

資料 公園緑地課

その他公園の状況

区分	所在	面積 (㎡)	施設
兼田児童公園	川崎	3,300	広場、遊具、修景施設
塔中コミュニティ公園	加茂町塔中	2,493	〃
人咲く・水と森の郷 川の学校公園	加茂町公郷	9,000	〃
竹之下レインボー園地	阿波	1,349	広場、修景施設
釜森公園	阿波	2,806	広場、ゲートボール場、修景施設
一ノ渡公園	阿波	814	広場、修景施設
ホテルの里公園	宮部上	15,687	広場、簡易炊事棟、キャンプ場
花と溪流の里公園	八社	5,355	修景施設、遊歩道
油木上公園	油木上	4,074	広場、修景施設
計	9ヶ所	44,878	

資料 公園緑地課

## ひと

### 人口・・・

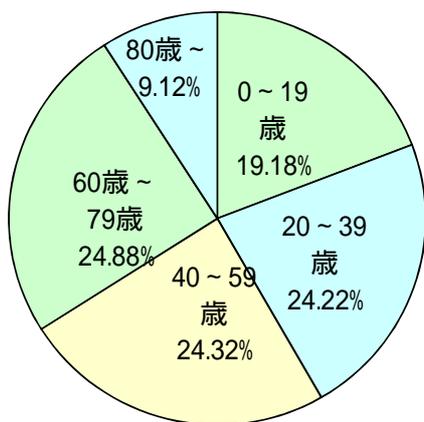
平成17年、平成22年の国勢調査によると、人口は微減傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。

人口の状況

	合計	男	女
平成17年	110,569	52,418	58,151
平成22年	106,788	50,787	56,001

資料 国勢調査

### 年齢別総人口



0～19歳	20,435
20～39歳	23,976
40～59歳	25,915
60～79歳	26,508
80歳～	9,722
合計	106,556

平成25年1月1日現在。

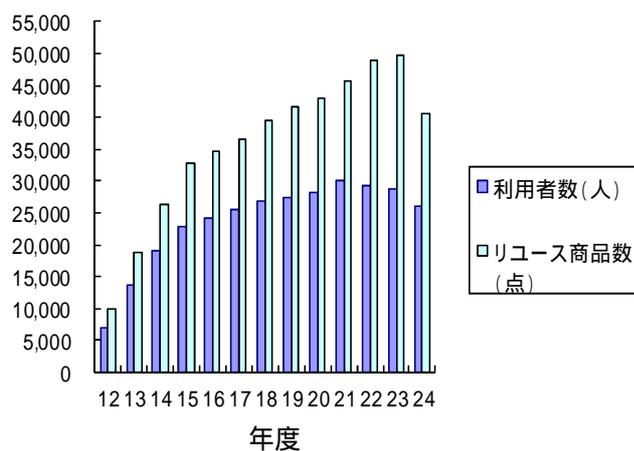
資料 市民課

### 市民の環境活動への関心・・・

市民の環境活動の関心の度合いを数値的に把握することは難しいことですが、リユースプラザ津山「くるくる」の運営状況がそれを示すひとつの指標と考えられます。

24年度は利用者数、リユース商品数ともに減少となりましたが、「くるくる」が市民の間に定着し、環境活動への関心が高まりつつあると推察できます。

リユースプラザ「くるくる」の利用状況

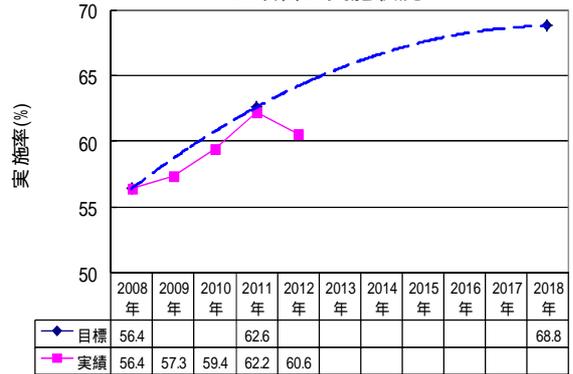


資料 環境事業所

## 市民の地球温暖化対策の取組み・・・

市では、「津山市地球温暖化対策地域推進計画」の取組み状況を図るため、毎年市民アンケートを行っています。そのアンケート結果によると、取組みの実施率は前回調査より減少しており、目標達成に向けた家庭における地球温暖化対策の更なる取組みが必要なことが推察されます。

地球温暖化防止のための取組み  
40項目の実施状況



資料 環境生活課

## 事業者の環境活動への関心・・・

事業者の環境活動への関心の度合いを測る「ものさし」のひとつとして、環境マネジメントシステムの取得状況が挙げられます。

それによると、市内で認証を取得している事業所は年々増加しており、環境配慮に対する関心が高まっていることが推察されます。

ISO14001認証取得事業所の主な業種

金属加工	情報技術開発
繊維、繊維製品製造	医療、在宅介護支援、訪問介護、保健サービス
電子・電気部品製造	電子機械器具製造
紙製品製造販売	コンビニエンスストア
再生資源処理加工	ショッピングセンター
環境緑化製品製造販売	スーパーマーケット
高発泡プラスチック製品製造	

津山市内のISO14001認証取得事業所の主な業種を掲載

津山市では、平成24年度より独自の環境マネジメントシステムを本稼働させ、市役所事務事業から発生する温室効果ガスの削減等、環境に配慮した事務所を目指した取組みを始めています。

### 津山市環境方針

#### 1 基本理念

津山市は、中核山岳の繁栄に資する、清潤と豊かな自然に囲まれた歴史と文化の誇るまちです。しかし、近年、気候変動の激化に伴うエネルギーや資源の大量消費が顕著となり、地球温暖化、オゾン層破壊といった地球規模の環境破壊や、単山環境など身近な自然の破壊、産業物の増加等の様々な環境問題が発生しており、その対策は急務となっています。

津山市では、このような様々な課題を解決し、次世代により良い環境を継承していくために、環境マネジメントシステムの導入を推進し、市の事務事業における環境への配慮に努めるとともに、職員一人ひとりが共通の認識のもと、環境負荷の低減に向けて継続的な改善に取り組んでいきます。

そして、市民、事業者及び市民団体、行政がともに行動し、津山市環境基本計画の目標である環境目標「創を積み、いのちばくくむ水、土、緑、未来につなぐ にぎわいのまち」の実現を目指します。

#### 2 基本方針

(1) 一事業所として環境にやさしい事務事業を推進し、特に以下の項目を重点的に取り組みます。

- ① 省エネルギー、省資源、廃棄物の削減及びリコース、リサイクル、グリーン購入を推進します。
- ② 環境に配慮した公共工事を推進します。
- ③ 環境保全や環境改善に関する協賛を推進します。

(2) 事務事業による環境への負荷の低減に努め、汚染の予防と改善に取り組めます。

(3) 環境関連法規や条例、規則その他の津山市が告示する事項を遵守します。

(4) 環境目的、目標を定め、見直しを行いながら、環境マネジメントシステムの運用及び継続的改善に努めます。

(5) 環境方針は、市の職員、市民及び事業者等に周知するとともに、市のホームページ等を適宜広く一般に公表します。

平成29年4月1日

津山市長 宮地昭範

資料 環境生活課

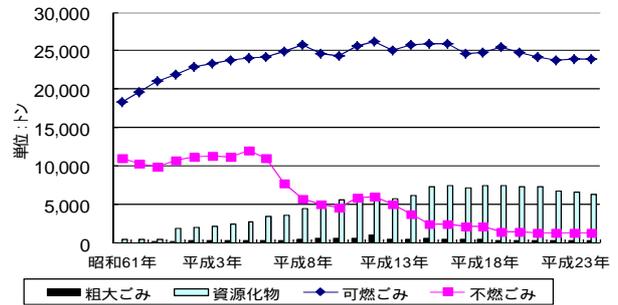
## 循環

### ごみ・・・

ごみ最終処分場の埋立残余年数が少なくなり、「ごみ非常事態宣言」を出したのは平成7年のことです。その後、可燃・不燃ごみの有料化（平成9年度）、プラスチック容器包装の回収（平成14年度）・青空リサイクルプラザの開設（平成15年度）により、不燃ごみは減少しています。資源化物の回収量は増加傾向にありましたが、近年ITの進展によるペーパーレス化に伴い古紙の回収量は減少しています。

最終処分場は、平成21年3月末で埋立終了となり、現在、不燃ごみについては、県外に持ち出して処分しているのが現状です。

ごみの排出量



ごみの排出量

可燃ごみ・不燃ごみは、旧津山市地域・加茂地域・阿波地域の合計。粗大ごみは、旧津山市地域の合計。資源化物は、旧津山市地域・加茂地域・阿波地域・集団回収・青空リサイクル・くるくでの回収の合計。

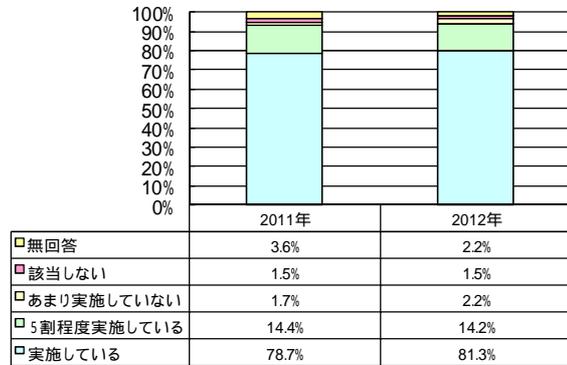
資料 環境事業所

### 資源化物としての排出・・・

市では、町内の資源回収場所の他、廃品回収や青空リサイクルプラザ等で、資源化物の回収を進めています。

市民アンケートの結果によると、『資源化できるものは資源化物として出している』の問いに、8割以上の方が実施していると回答し、実践していることがうかがえます。

資源化物としての排出

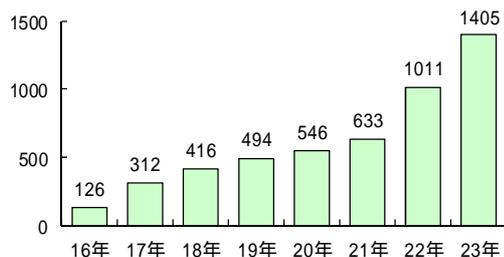


資料 環境生活課

## 太陽光発電・・・

再生可能エネルギーの固定価格買取制度の開始に伴い、住宅用太陽光発電設備のみならず、市内でも民間事業者・個人事業者による事業用の大規模太陽光発電設備の設置も行われています。

住宅用太陽光発電設備の設置状況



平成 24 年 3 月末現在  
入手可能なデータから作成しているため、網羅的に把握できているとは限らない。

メガソーラー設備認定状況	
件数	kW 数
12	64,310

平成 25 年 3 月末現在  
設備認定については同一場所に複数認定しているものがあるため、市内に 12 件のメガソーラーが設置されるわけではありません。

資料 中国経済産業局

## トピック

### 住宅の屋根でメガソーラー発電？

メガソーラー発電所（1,000 kWh）の設置には、およそ 13,000 m<sup>2</sup>（1.3ha）の敷地が必要とされています。

市内にも民間事業者によるメガソーラー発電所が建設され、地球温暖化対策・エネルギーの地産地消に向けた取り組みが進みつつあります。

津山市では、平成 22 年度から住宅用太陽光発電システム設置補助金を創設し、市内の住宅に設置する太陽光発電システムの経費の一部を補助しています。

平成 24 年度末までに補助対象となったシステムの総出力は 1,894 kWh となり、メガワットを超える太陽光発電が市内の住宅の屋根で行われていることとなります。

## 第2章 平成24年度の環境基本計画の実施状況とその評価

### 1 年次報告の意義

この章では、平成24年度の環境施策の実施状況だけでなく、その成果や課題についても明らかにしています。これは、次年度以降の施策の継続的な改善を手助けするためのものです。

また、今回の報告では、行政の施策だけでなく、市民や事業者の環境活動についても同じ形式で報告しております。したがって、各主体の実施状況と関連を把握することができます。

### 2 「ビジョン」ごとのプロジェクトの実施状況と評価

ここでは、「ビジョン」ごとにプロジェクトの平成24年度目標・実施状況・目標達成状況・課題等を記載しています。

目標達成の評価	マーク	判定内容
		目標以上の成果を挙げている
		目標を概ね達成している
		目標達成に向け施策・事業が進んでいる
	x	目標達成に向けた取組みが不十分

#### 自然

##### きれいな空と大地を守るまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
農業の適正使用及び回収処分の推進	協働	広報回数：10回	JAつやまと市が連携して、農業の適正使用について農業事業者へ啓発するとともに、本庁・支所でのポスター掲示・チラシ配布、支所の防災無線・有線放送による啓発を実施した。 広報回数：10回		
		農業の回収回数：1回	JAつやまが、期限切れ廃棄農業の回収処分を11月に実施した。 農業の回収回数：1回		
大気質や地下水質のデータ調査及び公表	市・県	環境基準の達成	岡山県により、市内で大気質・地下水質の調査が行われた。		大気、地下水いずれも環境基準を満たした。

##### 川面に吹く風の心地よいまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
生活排水による水質汚濁の防止	市	下水道普及率：35.5%	公共下水道整備事業を行い、平成25年3月現在で、普及率35.2%を達成した。		
		合併浄化槽設置補助基数：320基	合併浄化処理槽設置補助事業を行った。 合併浄化槽設置補助基数：271基		
河川清掃の実施	協働	河川清掃参加人数：2500人	市内を流れる吉井川・宮川・蘭田川の河岸を、周辺の46町内会に呼びかけ、6月3日に「第39回河川清掃」を実施し、事業者・行政等からのボランティアも含め2,500名が河川清掃活動に参加した。		河川清掃参加者の増加に向け、効果的な広報活動の検討が必要。

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
自然体験プロジェクト「水の学校」	協働	参加人数：50人	夏休み中の実施のため、目標の参加人数は達成できなかったが、18名の参加を得て、実施することができた。		
公共下水道の啓発	市	下水道教室 参加親子数：20組	大阪市内にある下水道科学館にて講習及び施設見学を実施した。 参加親子数：20組		業務の性質上、その効果について確認ができない。
		浄化センター見学人数：500人	509人の受入れを行った。		業務の性質上、その効果について確認ができない。
河川等の水質測定及び測定結果の公表	市	河川水質の環境基準の達成	市内中小河川51地点を調査し、おおむね良好な状況を確認した。		

### 心のふるさと里山里地の豊かなまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
植林地の管理	市・県	間伐面積：530ha 森林整備面積：4,842ha	森林整備は適切に行われた。 間伐面積：451ha 森林整備面積：5,325.31ha		
遊休農地の活用の推進	「市民農園」の運営 協働	事業の実施 発生した残余区画の利用	一斉清掃、夏及び秋の収穫祭を開催した。  全区画契約（37区画）		
	放牧モデル事業の実施 市	事業の実施	繁殖和牛雌牛の放牧を実施した。		
自然体験プロジェクト「森の学校」	協働	参加人数：各30人	久米山をフィールドとして、11月10日、2月9日に事業を実施した。 イベント参加者数：26名、48名		



## まち

### 未来を拓く地産地消のまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
学校給食に地場産食材の導入	市	年間使用食品数(%) 38%	JA と協議し学校給食用野菜規格表を作成し、10 月に発行した。基準ができたことにより、今後の生産拡大が期待できる。 実施率：34.4%		H26 年度 2 学期から、2 つの大規模センターとなるため、さらに安定供給が求められることから、生産者との協議を密に行う必要がある。

### 安全安心で活気があふれる楽しいまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
快適な音や匂いのある環境の整備	市	騒音についての環境基準の達成	11 月に主要道路沿いと住宅地等の騒音測定を実施した。 (測定結果は p.5)		環境基準を達成できなかった地点を重点的に監視するとともに、原因の究明を行う。

### 環境と歩行者を優先するまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
公共交通の整備及び利用促進	公共交通の整備 市	津山市地域公共交通総合連携計画に基づき、実証運行等を実施。	久米地域バス路線の再編、阿波地域過疎地有償運送を実施。		久米地域バスについて、一部区間に利用者の減少が見られ、今後の啓発方法の検討が必要。 阿波については、市営阿波バスとの共存が課題としてある。



## ひと

### 人や情報が交流するまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
市民参画、参加による環境基本計画の推進	協働	事業の実施	環境基本計画推進組織であるエコネットワーク津山の運営委員会に、市がオブザーバー参加し、運営支援を行った。 運営委員会への参加 12回		会員拡大に向けての対策づくり。
環境基本計画に係る年次行動計画・年次報告書の策定と公表	市	事業の実施	平成24年11月に環境報告書を発行し、年次行動計画・年次報告書を公表した。		
環境マネジメントシステムの普及	市	講習会又は企業等との合同行事の開催：1回	津山市環境マネジメントシステムへの移行に伴い、今後、事業者を対象としたセミナーは主催しない。		
		エコオフィスプラン2006の運用	平成25年4月策定予定の新計画【地球温暖化対策実行計画(事務事業編)】策定に向けた取り組みを実施。		

### 環境意識をみがき上げるまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
各種環境啓発の実施	市民	青少年健全育成のための環境学習の実施(廃品回収)	津山市子ども会連合会による廃品回収を行った。 青少年の分別・リサイクル意識が向上した。		子どもたちの自主性が、より期待される。
		イベントでの廃棄物の分別、リサイクルなど市民への啓発の実施	8月に野外キャンプ(2泊3日)を実施。イベントを通じて分別・リサイクルの意識及び自然の大切さを体験し環境意識が向上した。		子どもたちの自主性が、より期待される。
	市	環境啓発の実施	親子エコフェスタ2012の運営を支援し、環境意識向上に向けた啓発活動を行った。		イベントでの集客を活用して、効果的な啓発活動を行った。
	事業者	市民への啓蒙活動の実施	(財)津山市都市整備公社が環境再生推進事業として、津山納涼ごんごまつり等のイベントを通じ、不用食器のリサイクルシステムの紹介及び不用食器の回収、正しいごみの分別の仕方についての啓発を行った。		イベントでの集客を活用して、効果的な啓発活動を行った。

夏28度



## 子どもの時から学び、共に育つまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
環境教育プログラムの作成実施	協 働	事業の実施	テレビ津山で放映した環境番組を DVD 化し、市内小学校へ配布。環境学習に使用いただくよう依頼。		アスエコ等専門的に環境学習を行っている団体とのタイアップにより、効果的な環境学習の場の提供が必要。
地域での環境学習や環境の取組みの推進	市	「子どもエコクラブ」の加入クラブ数の拡大 エコクラブ会員数： 10クラブ又は 100人以上	環境省が主宰する「子どもエコクラブ」の会員拡大を図り、同クラブ全国事務局から環境情報の提供を行った。 エコクラブ会員数：259人		子どもエコクラブの活動内容の充実

## 循環

### ごみを減らし、資源の循環するまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
ごみ減量に関する各種取組みの推進	協 働	「つやま・エコ・システム」の維持運営、事業の実施	つやま・エコ・システムを引き続き運営し、平成24年度はエコシールを316,952枚を交付した。配布目標枚数 400,000枚マイバック持参運動に店舗独自が取り組むようになり、独自ポイント制度が普及しているため、配布枚数の減少となった。		エコシステムは市民に浸透し、一定の役割は果たしている。当初の目的はレジ袋の無料配布中止であったが、参加店舗が独自で有料化やポイント制度の取り組みを進めており、今後の取り組みについて検討する必要がある。
		「ごみゼロ新聞」発行回数：3回	ごみゼロ新聞編集委員会を開催し、「ごみゼロ新聞」を6月・10月・2月に発行。ごみ減量化に関する啓発を行った。 「ごみゼロ新聞」発行回数：3回		市民の意識向上には繰り返し啓発が必要だが、それ故にマンネリ化の感もあり、市民が興味を持つ記事作成について検討が必要。
	市	施設見学受け入れ小学校数：21校	小学校を対象に施設見学を実施した。 施設見学受け入れ小学校数：21校		学んだことを実践してもらおうよう促すことが必要。
リユースに関する各種取組みの推進	協 働	「くるくる」利用者数：30,000人	エコネットワーク津山が、リユースプラザ津山「くるくる」を受託運営し、不用品のリユースを推進した。また、9月には加茂地域で移動「くるくる」を開催した。 利用者数：25,989人		開設後10年以上経過しており、認知度は高いと思われるが、効果的な広報活動により更なる周知を図る。
リサイクルに関する各種取組みの推進	市 民	地域でのリサイクル事業の実施	回収量はH23より約21t(約3%)の減少と横ばい状態。継続が肝要。		新施設稼働に向けての分別等の方向性の注視。H26からは加茂地域が加わることから円滑な実施への説明・啓発が必要。
		資源回収団体による地域でのリサイクル事業の実施	旧津山市内の子ども会、PTA等の地域の資源回収団体が新聞・雑誌・ダンボール・アルミ缶等の回収を定期的に行い、リサイクルを推進した。		
	市	青空リサイクルプラザの継続実施 回収量：370トン	H23年比約26tの減少であるが、その大部分は古紙類の減少であり、ITの進展によるペーパーレス化や古紙回収BOXの設置(H23より約51t増)によるものではないかと推察。 回収量：350トン		古紙・古布の回収量が減少傾向だが、他の回収手段と合わせ、古紙・古布をリサイクルするために継続した広報・啓発を行う。
		民間集合住宅の入居者に対するリサイクル活動の啓発	不動産管理事業者の協力を得て、民間集合住宅の入居者に対し、9月と3月にリサイクルカレンダーを配布した。		ごみ減量、リサイクル推進のため、広報・啓発を行う。

生ごみ処理の推進	市	生ごみ処理機補助制度の継続実施 補助件数： 電気式生ごみ処理機 83 台 コンポスト容器 178 個	都市部での生ごみ減量に期待される電気式の台数があまり伸びない。機器の販売価格が以前に比べ高額になっていることも原因の一つと考える。 補助件数： 電気式生ごみ処理機 41 台 コンポスト容器 179 個	電気式の台数が伸びないことから、購入の動機付けにつながるよう補助金額等を含めた事業の見直し等を検討し、H25 より制度改正を実施した。引き続きの啓発が必要。
ごみの野外焼却や不法投棄のないまちづくりの推進	市	不法投棄防止看板の設置、ボランティア袋の配布	不法投棄が問題となっている町内会の要請により、不法投棄防止の看板を随時配布した。また、地域にポイ捨てされたごみを町内会が回収する場合に、無料のごみ袋（ボランティア袋）を随時配布した。	回収しても不法投棄があつたを絶たない。効果的な防止対策や監視体制の導入。
身近な公共スペースの環境美化活動の推進	協働	市内主要道路沿いのごみの回収の実施	8月26日に地域住民、建設業協会等の各種団体、市、県が協力し、市内主要道路沿いのごみの回収を実施した。 参加人数：1,675人 平成24年度回収量：約3トン	今後とも道路愛護月間の運動として継続していく。

### エネルギー自立を目指すまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
省エネルギーの普及啓発 新エネルギーの普及啓発	協働	普及啓発イベントの実施	6月10日に行われた「親子エコフェスタ2012」での啓発を行った。 イベント参加者数：約1,200人		継続的な普及啓発の実施
	市	省エネルギー啓発の実施	広報つやま・ホームページなどを通じて、「クールビズ」「ウォームビズ」「うちエコ！」などの省エネルギー啓発を行った。また、電力会社からの節電要請に対応した取り組みを全庁で実施。		節電・ピークカットを推進するため、今後も夏季の節電を全庁的に推進する



## 第3章 平成25年度の行動計画

### 1 年次行動計画の意義

この章では、第1章で述べた環境将来像の実現に向けて、平成25年度の環境施策にかかる計画を示しています。計画策定にあたっては、平成24年度の環境基本計画の実施状況とその評価を基に、より事業効果を上げられるよう、計画の継続的な改善に努めました。



第3章 平成25年度の行動計画  
2 「ビジョン」ごとの年次行動計画 … 「自然」

環境将来像 (ビジョン)		プロジェクト	実施主体	事業内容	目標
水、土、緑、未来につなぐ、わいのまち	きれいな空と大地を守るまち	1 農業や薬品の適正使用及び処理の啓発	協働	JAつやまと市が連携して、農業の適正な使用・処理について市民・事業者・農業事業者へ広報を行う。JAつやまが、期限切れ廃棄農薬の回収処分を実施する。	広報回数：10回 農薬の回収回数：1回
		2 大気質や土壌質のデータ調査及び公表	市・県	岡山県環境保健センターの大気測定局の測定データを活用し、大気質を判定する。市内の地下水質を測定し、土壌質を判定する。	環境基準の達成
	川面に吹く風の心地よいまち	3 生活排水による水質汚濁の防止	市	公共下水道整備事業を継続実施する。合併処理浄化処理槽設置補助事業を継続実施する。	下水道普及率：35.7% 合併処理浄化槽設置補助基数：285基
		4 河川清掃の実施	協働	河川清掃を継続実施する。	河川清掃参加人数：2,500人
		5 自然体験学習の実施	協働	自然体験プロジェクト「水の学校」の参加を小学校に呼びかけ、継続実施する。	参加人数：50人
		6 公共下水道の啓発	市	夏休み親子下水道教室を開催する。下水道浄化センターの見学を受け入れ、下水道の役割と啓蒙を図る。	下水道教室参加親子数：20組 浄化センター見学人数：400人
		7 河川等の水質測定及び測定結果の公表	市	主要河川17地点及び市内中小河川51地点の水質測定を継続実施する。	河川水質の環境基準の達成
	心のふるさと里山里地の豊かなまち	8 植林地の管理	市・県	私有林の間伐を継続実施する。森林整備地域活動支援事業を継続実施する。	間伐面積：530ha 森林整備面積：4,500ha
		9 遊休農地の活用の推進	協働	農業者以外の市民が野菜、草花等を栽培して、自然に触れ合うとともに、農業に対する理解を深めることを目的に平成15年度に開園した「市民農園」を運営する実行委員会を支援する。	一斉清掃、収穫祭の開催・事業の実施
			市	遊休農地を把握し、地域の農業者の理解と合意の下に、認定農業者等へ貸し付けることにより遊休農地の解消及び利用集積を促進する。	和牛放牧モデル事業（遊休農地の活用）の実施 実施面積100a
	10 自然体験学習の実施	協働	自然体験プロジェクト「森の学校」を継続実施する。	参加人数：各50人（合計100人）	
消滅のまち	11 学校給食に地場産食材利用の充実	市	すべての学校給食施設で年間を通じて学校給食に地場産食材を使用する。	地場産食材年間使用食品数：40%	

第3章 平成25年度の行動計画  
2 「ビジョン」ごとの年次行動計画 … 「まち」

環境将来像 (ビジョン)		プロジェクト	実施主体	事業内容	目標
水、土、緑、未来につなぐ、わいのまち	住んでみたいまち	12 快適な音や匂いのある環境の整備	市	主要道路沿いと住宅地等の騒音測定を継続実施する。	環境基準の達成
		13 公共交通の整備・利用の促進	市	平成21年度に策定した「津山市地域公共交通総合連携計画」に基づく、公共交通体系の整備。	維持・継続できる交通体系の整備

第3章 平成25年度の行動計画  
2 「ビジョン」ごとの年次行動計画 …「ひと」

環境将来像 (ビジョン)		プロジェクト	実施主体	事業内容	目標
水、土、緑、未来につなぐにぎわいのまち 刻を積み、いのちはぐくむ	交流や情報 が ま	14 市民参画、参加による環境基本計画の推進	協働	「環境基本計画推進組織エコネットワーク津山」の運営の支援を行う。	事業の実施
		15 環境基本計画に係る年次行動計画・年次報告書の策定と公表	市	年次行動計画・年次報告書を策定し、公表する。	事業の実施
	環境意識を みがき上げる まち	16 環境マネジメントシステムの普及	市	津山市環境マネジメントシステムの継続的な運用。	事業の実施
		17 各種環境啓発の推進	市民	津山市子ども会連合会による事業において、環境学習を実施する。 津山市子ども会連合会による廃品回収を行う。	事業の実施 事業の実施
			事業者	(一財)津山市都市整備公社が環境再生推進事業として、環境問題及びごみの減量、リサイクル等について市民を中心に広く啓蒙啓発活動を行う。	事業の実施
	市	イベント等の開催に合わせ、広く環境啓発を行う。児童向け啓発事業として、出前講座を実施する。	事業の実施 出前講座の開催回数:4回		
共に育つ まち	18 地域での環境学習や環境の取組みの推進	市	(財)日本環境協会が主宰する「子どもエコクラブ」の会員拡大を図る。 環境活動を実行できる市民を育てるための環境教育プログラムを作成する。	事業の実施 事業の実施	

第3章 平成25年度の行動計画  
2 「ビジョン」ごとの年次行動計画 …「循環」

環境将来像 (ビジョン)		プロジェクト	実施主体	事業内容	目標
水、土、緑、未来につなぐにぎわいのまち 刻を積み、いのちはぐくむ	ごみを減らし、 資源の循環する まち	19 ごみ減量に関する各種取組みの推進	協働	「つやま・エコ・システム」を引き続き運営し、レジ袋削減を推進する。 ごみゼロ新聞編集委員会を開催、「ごみゼロ新聞」を発行する。	エコシール配布枚数:300,000枚 新聞発行回数:3回
			市	処分場などの施設見学を受け入れ、市民・児童の環境学習を援助する。	施設見学受け入れ団体数:21校
	資源とエネルギーの 廻るまち	20 リユースに関する各種取組みの推進	協働	リユースプラザ津山「くるくる」を運営し、不用品の再利用(リユース)を推進する。 移動「くるくる」を実施する。	利用者数:30,000人 事業の実施
		21 リサイクルに関する各種取組みの推進	市民	旧津山市内の全町内会において、家庭で排出されるカン・ピンの回収を定期的に行い、地域でのリサイクルを推進する。 旧津山市内の子ども会、PTAなどの地域の資源回収団体が新聞・雑誌・ダンボール・アルミ缶・古布等の廃品回収を定期的に行い、地域でのリサイクルを推進する。	事業の実施 事業の実施
			市	青空リサイクルプラザを継続開催し、家庭で排出される再資源化物の回収を行う。 民間集合住宅の入居者に対し、リサイクル活動を促す啓発チラシを配布する。 生ごみ処理機の補助事業を継続実施する。	回収量:350トン 事業の実施 補助件数:電気式生ごみ処理機100台 コンポスト容器184個
	エネルギー を 目指す まち	22 身近な公共スペースの環境美化活動の推進	協働	地域住民、建設業協会等の各種団体、市、県が協力し合い、市内主要道路沿いのごみの回収を実施する。	事業の実施
23 省エネルギーの普及啓発 新エネルギーの普及啓発		協働	省エネルギー・新エネルギーについて、各種イベントなどで環境ヒーロー「津山太助となかまたち」を活用し、地球温暖化対策の普及啓発を行う。	事業の実施	

## 津山市の環境報告書

平成25年度版

平成25年12月発行

発行 津山市環境福祉部新エネルギー環境政策室

〒708-8501 津山市山北520番地

T E L ( 0868 ) 32-2051 ( 直通 )

F A X ( 0868 ) 32-2158

e-mail : [shineneseisaku@city.tsuyama.okayama.jp](mailto:shineneseisaku@city.tsuyama.okayama.jp)

この環境報告書について、ご意見ご感想をお寄せください。

